

町の弱みや強み等についての意見交換

1. 本日の目的

次期総合計画を策定するにあたり、まずは「私たちのまちの現在地」を正しく把握する必要があります。

本日は、各分野の委員の皆様の視点から、まちの「強み・弱み」「機会・脅威」についてご意見をいただきたいと考えております。

「まち全体」という大きな主語でなくても構いません。「農業者の視点では」「子育て世代の視点では」「商工業者の視点では」といった、皆様それぞれの専門分野や日々の生活の実感からご意見をお聞かせください。

2. 4つの視点

Strengths（強み）：まちの「内部」にあるプラス要素。このまちならではの魅力や財産。

Weaknesses（弱み）：まちの「内部」にあるマイナス要素。まちの発展を妨げている、解決すべき内部の課題。

Opportunities（機会）：まちの「外部」から吹く追い風（プラスの変化）。世の中の「チャンス」となる変化。

Threats（脅威）：まちの「外部」から吹く向かい風（マイナスの変化）。世の中の「ピンチ」となる変化やリスク。

3. 参考

アンケート結果などを踏まえ、策定支援業務受託業者で作成したSWOT分析の結果を添付します。

【現行計画 基本政策 1 行財政分野】

S（強み） ・ 情報共有化の推進、行政改革の推進に対する町民の満足度が比較的高い ・ DX 推進計画を策定し、自治体 DX を計画的に進めるための土台がある ・ ふるさと応援寄附・地域おこし協力隊など、外部資源活用につながる既存事業がある	W（弱み） ・ 財政運営の健全化に対する町民の不満が多い傾向にある ・ 自治体 DX、町民ニーズに対応できる職員の育成、町民参加・協働の推進は、町民の「わからない」が多く、施策内容や具体的な取組が分かりにくい可能性がある ・ 財政力指数が低く、限られた財源の中で施策の選択と重点化が必要
O（機会） ・ 行政サービスのデジタル化・効率化が求められている ・ 広域連携や官民連携・共創による地域課題対応の重要性が高まっている ・ 外部人材・外部資金を活用したまちづくりが広がっている	T（脅威） ・ 人口減少・高齢化により、町の財源や職員の確保が難しくなる可能性がある ・ 子育て支援、福祉、交通、公共施設更新など、町が対応すべき課題が同時に増える ・ 物価高騰・建設費上昇により、公共施設改修やインフラ維持に係る財政負担が増える

【現行計画 基本政策２ 産業経済分野】

S（強み） ・ 農業が基幹産業として、地域経済や田園環境を支えている ・ 消費者との交流と食育の推進、環境と調和した活力ある農村の構築、収益性の高い農業の確立に対する町民の満足度は高い傾向 ・ 南幌流通団地という新たな企業立地の受け皿が整備されつつある ・ 町内企業に、職場体験や地域貢献への潜在的意欲がある	W（弱み） ・ 地域交流の場となる商店街づくり、南幌町に適した業種の誘致・育成に対し町民の不満が多い傾向 ・ 農業従事者の高齢化、担い手確保が課題となっている ・ 町内企業で人材不足が常態化している ・ 仕事、働き先の少なさが転居理由として挙げられている
O（機会） ・ 南幌ランプ開通による物流・企業誘致面での立地条件の向上 ・ 農業の省力化・生産性向上、環境に配慮した持続的な農業への転換が求められている（食料・農業・農村基本法改正、スマート農業技術活用促進法、みどりの食料システム戦略） ・ 農業と食育・地産地消・地域学習を結びつける意義が高まっている（食育推進基本計画）	T（脅威） ・ 人材獲得競争が強まり、町内企業や新規立地企業の人材確保が難しくなる可能性がある ・ 農業従事者の高齢化、担い手不足、資材高騰、気候変動により、農業経営や生産基盤の維持が難しくなる可能性がある

【現行計画 基本政策3 教育・文化分野】

S（強み）

- ・ 中高生の約 8 割が南幌町に愛着を持っている
- ・ 自然や住環境、地域とのつながりなど、子ども・若者が安心して暮らせる地域環境への満足度が高い
- ・ スポーツ、読書活動に対する町民評価が比較的高い
- ・ 学校教育は、町民・職員双方で優先度の高い施策として認識されている
- ・ 町内企業に、子ども・若者向け職場体験や地域貢献への潜在的意欲がある

O（機会）

- ・ ICT 教育、探究学習、キャリア教育など、これからの社会に対応した学びの多様化が進んでいる
- ・ 地域と学校、企業、大学等が連携した学びの機会づくりが重視されている
- ・ 人生 100 年時代を背景に、生涯学習、文化、スポーツを通じた学び直しや社会参加の重要性が高まっている

W（弱み）

- ・ 中高生の定住意識は約 5 割にとどまる
- ・ 高校生や札幌圏内の高校生ほど町外志向が強い
- ・ 学校教育・社会教育に対する町民の不満が多い傾向にあり、家庭教育支援は満足と不満で評価が分かれている
- ・ 中高生では、文化・芸術を体験できる場への不満がみられる

T（脅威）

- ・ 全国的な少子化により、学校教育、部活動、地域活動の維持が難しくなる可能性がある
- ・ 進学・就職を契機とした若者の都市部流出が続きやすく、地域の担い手確保が難しくなる可能性がある
- ・ 地域活動や文化・スポーツ活動の担い手不足により、地域文化や活動機会の継承が難しくなる可能性がある
- ・ デジタル化や AI 活用が進む中、ICT 環境や情報活用力の差が、学びの機会の差につながる可能性がある

【現行計画 基本政策4 保健福祉・医療分野】

S（強み） ・ 感染症予防、成人保健、母子保健に対する町民評価が比較的高い ・ 母子保健、児童福祉は、住民・職員双方で優先度の高い施策として認識されている ・ 認知症サポーターメイト数の人口比率が周辺自治体と比較して高い ・ 健康づくり、安全、生きがいづくりは高齢者から比較的评价されている	W（弱み） ・ 地域医療や救急体制、地域で暮らすための支援に対して町民の不満が多い傾向 ・ 医療・保健福祉への不安が、転居理由の上位に挙げられている ・ 高齢化率が全国平均を上回っており、医療・介護・生活支援ニーズの増加が見込まれる
O（機会） ・ 地域包括ケア、介護予防、在宅生活支援、認知症施策の重要性が高まっている ・ 介護予防・日常生活支援総合事業など、市町村が地域実情に応じて支援を組み立てる制度がある ・ こども政策、母子保健、子育て支援に関する国・道の制度拡充が進んでいる ・ 共生社会、地域福祉、障がいのある人の地域生活支援への関心が高まっている	T（脅威） ・ 高齢化、世帯構成の変化により、医療、介護、見守り、相談支援、生活支援のニーズが増加する ・ 医療・介護・福祉人材の不足により、サービス提供体制の維持が難しくなる可能性がある ・ 地域医療・救急医療を取り巻く広域的な医師・医療資源不足の影響を受ける可能性がある ・ 移動手段の不足により、通院や福祉サービスの利用に支障が生じる可能性がある

【現行計画 基本政策5 生活環境分野】

S（強み） ・ 町民の約8割が南幌町を住みやすいと感じ、今後も住み続けたい意向を示している ・ 自然、子育て環境、住環境、地域とのつながり、治安への満足度が高い ・ あいうえおの利用者数が増加し、町内移動を支える取組がある ・ 温泉、キャンプ場、はれっばなど、親子利用や交流につながる地域資源がある	W（弱み） ・ 地域公共交通に対する不満が多い傾向にある ・ 交通、買い物、医療・保健福祉、除雪などが転居理由や定住上の課題として挙げられている ・ 公共交通、商業施設、医療・保健福祉の充実を求める声が多い ・ 中高生では、交通、働く場所、買い物・娯楽への満足度が低い傾向がみられる
O（機会） ・ 道央圏連絡道路・南幌ランプの開通により、広域アクセスが向上している ・ 国全体で、交通空白対策や地域公共交通の再構築、デマンド交通等への関心が高まっている ・ 空家法改正や二地域居住の推進により、空き家活用・移住促進に取り組みやすい制度環境が整いつつある ・ 子育て世代・若年世帯の地方移住や、ゆとりある住環境への関心が高まっている	T（脅威） ・ 公共交通の利用者減少、運転手不足、運行コスト上昇などにより、移動手段の維持が難しくなる可能性がある ・ 人口減少・高齢化に伴い、空き家や老朽住宅の増加が全国的な課題となっている ・ 人口減少や担い手不足により、買い物、医療、交通など、日常生活を支えるサービスの維持が難しくなる可能性がある